



# ゼビオカップ キッズサッカーフェスティバル2017 写真館

フェスティバル模様は、岩手朝日テレビで8月5日(土)の13時00分から放送されます。

\*\*\*\*\*

日 時：平成 29 年 7 月 15 日(土)～16 日(日)  
 会 場：いわぎんスタジアム(盛岡南公園球技場)  
 主 催：公益社団法人岩手県サッカー協会／公益財団法人盛岡市体育協会  
 共 催：株式会社岩手朝日テレビ  
 主 管：公益社団法人岩手県サッカー協会 キッズ委員会  
 後 援：岩手県教育委員会／盛岡市／財団法人岩手県体育協会  
 協 賛：[ゼビオ株式会社](#)  
 協 力：ミズノ株式会社／株式会社グルリット  
 大会特別ゲスト：平瀬智行さん(元日本代表、現ベガルタ仙台アンバサダー)  
 参加者総数：1,072 名 ( U-10 64 チーム 770 名、U-8 41 チーム 302 名)  
 運営スタッフ：キッズ委員会キッズスタッフ、チーム帯同審判・ユース審判ほか

\*\*\*\*\*

## 1 日 目 ◆7 月 15 日 ( 土 )

- ・U-10 の部 予選リーグおよび決勝トーナメント進出決定戦 ( 8 人制ゲーム、64 チームを 16 グループ分け、グループ上位 2 チームが 2 日目の決勝トーナメント進出決定戦を行う )

### U-10 開会式の様子





(公社)岩手県サッカー協会 佐藤訓文会長より挨拶  
U-10 試合の様子





## 2日目 ◆7月16日(日)

- ・U-8 の部 リーグ戦 (5人制ゲーム、41 チームを 10 グループ分け)
- ・U-10 の部 決勝トーナメント

## U-8開会式の様子



## U-8 試合の様子



U-10 決勝トーナメントの様子



## U-10 表彰・閉会式の様子



### 【2日間を終えて】.....

#### <U-8 フェスティバル担当（有馬大策）のコメント>

ゼビオカップにご参加いただきまして誠にありがとうございます。  
2日目に行われました U-8 のカテゴリーでは 12 コートを用意して全員がたくさん試合ができるよう考慮し、いわぎんスタジアムの天然芝でボールを蹴っていただきました。  
時折雨が降ったためみなさまにご協力いただき休憩時間の間隔を早め、幸い雷レーダーが反応することもなく全試合を終えることができました。雨が降ってもキッズ達は元気にボールを一生懸命追いかける姿はたくましく見えました。  
今回のゼビオカップを通じてサッカーの楽しさもさることながら試合ができることの仲間の大切さを感じただけなら幸いです。今後の活躍に期待します。  
そして父兄の皆さまやチーム帯同のスタッフさま、また運営に関わっていただいた全ての皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

## <全体運営責任者（瀬谷圭太 キッズ委員会委員長）の総括コメント>

ゼビオカップ キッズサッカーフェスティバル2017に参加いただきありがとうございました。皆様の協力のおかげで無事に進めることができました。

今回のフェスティバル全体を通して見ると、元気のある2日間だったと思いました。どこでもにぎやかな姿が見られました。きっとこれは、サッカーを楽しもう、サッカーが大好き、いわぎんスタジアムでサッカーができてうれしい！などの気持ちがあったからだと思いました。

運営責任者として見た2日間を総括したいと思います。

### 1 U-8

U-8では、キッズの本質である「サッカーを楽しむこと」をたくさん感じてもらいたいと思いながら試合を見ました。

見る視点として、開会式でも話した

#### ①協力

#### ②ありがとう（感謝の気持ち）

の2つことを意識しました。

どのピッチでも、歓声が上がリ、楽しそうであり、さらに真剣なまなざしでボールを追いかけている姿がたくさん見られました。仲間に声をかけるシーンが数多く見られました。「ドンマイ」「そっちに行ったぞ！」「ナイスシュート！」など仲間を考えた言葉は素敵だなと思いました。そこに対して、各チームスタッフがほめるシーンも良かったと思いました。

サッカーをしたい、勝ちたい、シュートしたいなどサッカーを楽しむ本質が現れる場面だったと思います。U-8年代としては、この気持ちが大切だと思います。

これからもあきらめない選手にはどんだんグリーンカードを出したいと思います。

最後に、せっかくなので、U-8にも課題を。「考えてプレー」することです。「何のために〇〇をするのか」を考えてプレーすることで、もっと成長します。各チームにこれができる素敵な選手がいました。ぜひ、チームの中で共有して、考えられる選手になってほしいですね！

### 2 U-10

U-10では、3つの視点を持って見ました。これは毎年の視点です。

1つ目は、キッズの本質である「サッカーを楽しむこと」と「本気の勝負」を、子どもたちに、たくさん体験してもらいたい、と思いながら試合を見ました。

2つ目は、4年生までの年代で、どんなことができ、どんなことが課題であるかを、指導側として、これから先を見据えるための視点を持って見ました。

3つ目は、オン・ザ・ピッチでも、オフ・ザ・ピッチでもグリーンカードに値するプレーがたくさん出るかな？と思いながら見ました。

#### (1) サッカーを楽しむこと・本気の勝負

今回のフェスティバル、初日の予選リーグでは、拮抗した試合が多かったです。その拮抗した中で、本気の自分のプレーをし、本気の相手との勝負を通して、さらに上手になったり、もっとうまくなろうという気持ちを持ったたりという場面をたくさん見させてもらいました。特に、ボールを持ったときに、スペースを見つけると、ぐいぐいとチャレンジしていく姿や、周りを見て、仲間を信じてパスを回す姿などは、上手だなと思いながら見ました。「もっとうまくなりたい！」を感じたのは、プレーの節々に、「自分はこうしたかった」と口で言ったり、身振り手振りをしたりする子がいたことです。本気の勝負をする中で、子どもたちは成長していくんだと感じました。

#### (2) できることと課題

##### ①できたこと、よかったこと。

- ・ボールを持ったときに、ゴールに向かうプレー。

ドリブルで突破を試みるプレーが良かったです。また、ゴール前で落ち着いてまわりの仲間へパスをする場面も見られました。

U-8でも見られましたが、何のためのコントロールか、ということ意識する選手は、シュートにつながるプレーをしていました。

- ・体の入れ方

ボールが取られそうになったときに、ボールと相手との間にサッと体を入れてキープできる選手が多かったです。また、どちらのチームのボールになるか微妙な時に、一步早く体を入れている選手も多く見られました。

これはふだんの練習で競い合いながらプレーしているからだと思います。チームとしてのサッカーができてきているチームの、個人を見ていくと、今年は体の入れ方が一つのポイントだと思いました。

きっと、「自分のボールにしたい!」「勝ちたい!」と思い、考えた結果や、良いプレーなどをまねして、自分のものになっているからこそ、できているのだろうと思いました。キッズ年代には、教えることも大切ですが、気づかせて自分で工夫させることも大切。体の入れ方は一つの指標になりそうですね。

#### ・ゴールキーパー

昨年度も上げましたが、今年も目につきました。試合の中でキーパーの位置取りとキャッチが良いなと思いました。1対1の場面でのシュートストップの場面をたくさん見ました。最後までボールから目を離さずにとめようとするところがトレーニングのたまものだと思います。後ろからの声かけもいっぱいがんばっていました。

育成年代です。多くの子にゴールキーパーを経験してもらいたいと思います。良いプレーを参考に、多くの子にチャレンジしてほしいですね。

#### ・ポジションの役割

2日間を通して、自分のポジションの役割を果たしているプレーがありました。47FAチーフインストラクターの出口さんのコメントによると、「小学校5,6年生でできることが、この年代でもやろうとして、できている場面が多いことが素晴らしい」また、佐藤会長からは「様々なポジションをやることは大切。それと同様に、ある程度そのポジションの経験を続けて積むことも大切。」とコメントをいただきました。8人制サッカーの利点を生かし、みんなで攻撃、みんなで守備をすることを意識しながら、ポジションごとの役割を少しずつ考えても良いかもしれませんね。

キッズリーダー講習会でもお話していますが、「自分と仲間と相手のサッカー」にするために、ポジションを意識して、仲間を意識して、協力する姿をこれからも突き詰めてほしいですね。

### ②これからの課題。

★キッズはサッカーを楽しむことがメイン。しかし、楽しむためには、技術の向上ももちろん必要。これからのキッズを考えて、4年生には取って課題を考えました。

#### ・ファーストタッチ

自分のもっとも蹴りやすいところに、いつでもどこでもコントロールできるようになってほしいと思いました。

#### ・ボールをもらった後のプレー

もらって満足、ではなく、次のプレーにつながるが必要かなと思いました。もらった後にどうするかを考えることは、意識の問題。いつでもどこでも考えてプレーする習慣が有ると良いですね。

#### ・キック

しっかりと蹴ることができる。サッカーの楽しさの一つですね。ジュビロ磐田の中村俊輔選手は、キックの練習をたくさんしました。是非、相手よりすごいキックを練習で身に付けてほしいですね。

### (3) グリーンカード

今回は、本当にあいさつがすてきな選手がたくさんいました。ピッチに入っていくとき、スタンドで見ているとき、会場を後にするとき、いつでも“あいさつ名人”がたくさんいました。その様子を見た、たくさんの来賓の方々や関係者から、お褒めの言葉をいただけたこと、私たちもうれしかったです。

また、ボールを拾ってもらったときに「ありがとうございます」とすぐに言える選手もすてきでした。感謝の気持ちですね。準々決勝、準決勝の試合。疲れている中、子どもたちは決勝めざして本気の勝負をしている中、相手のためにボールを拾ってくるプレーがたくさん見られました。すばらしいと思いました。このような心がけがあることが、成長につながると思います。また、これからのサッカー人生にプラスになると思います。

このような選手が増えるように私たちももっとほめていきたいと思います。

U-10キッズの、参加したみなさんに、「グリーンカード!」です!

キッズ年代は、育成年代でも「楽しさ」が特に大切な年代です。もちろん、上達していくように指導することとても大切です(だからこそ、課題を上記しました)。しかし、技術同様に、全力でやること、

協力すること、感謝すること、まわりに感動を与えられたり、自分たちが感動させられたりするくらいに取り組むことが大切だと子どもたちのプレーを見て思いました。

最高の芝生のピッチで、キッズのみんなが最高のプレーができたこと。これは、たくさんの方々のお力添えがあったからできたことでした。

特別ゲストの平瀬智行さんには子どもたちへの声かけや、一緒にサッカーを楽しむこと、などたくさん岩手の子どもたちのために力をいただきました。ありがとうございます！（一緒にサッカーをしたり、握手やサインをもらったりした選手、良かったですね！とちなみに、岩手キッズへのメッセージとしては「キック」「トラップ」この練習が必要とのことでした！）

盛岡市体育協会と協働主催で運営したキッズサッカーフェスティバル。ゼビオスポーツ様、岩手朝日テレビ様をはじめたくさんの方々のお力添えのおかげで、このゼビオカップ キッズサッカーフェスティバル2017を開催することができました。おかげさまで、子どもたちの笑顔に出会うことができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

【編集】蝦名浩明(県協会事務局)